
❖ 講演会・研究セミナー ❖

緊急報告会

仏教徒として何ができるのか？—ミャンマー人道支援活動から—

2021 年 8 月 3 日(火) 15:00～16:00

龍谷大学 大宮学舎 西翼 2 階大会議室/オンライン開催 (Zoom)

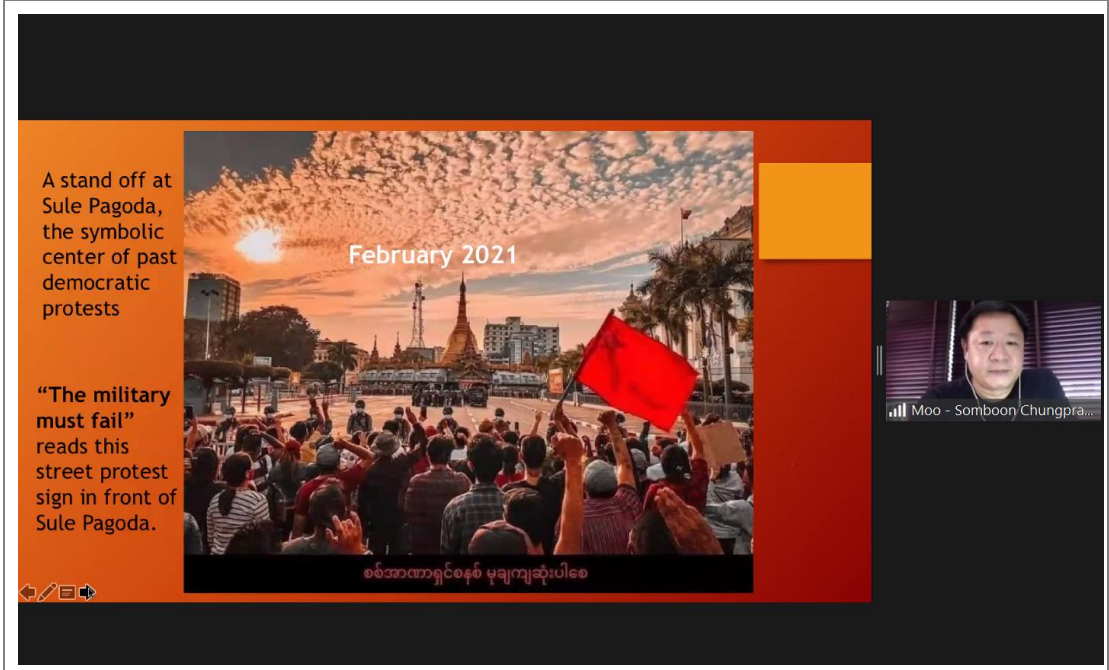


報告会の様子

❖ 概 要 ❖

2021年8月3日(火)、国際エンゲージド・ブuddiズム・ネットワーク (International Network of Engaged Buddhists/INEB) 理事総長のソムブーン・チュングプランプリー氏を招き、緊急報告会「仏教徒として何ができるのか?—ミャンマー人道支援活動から—」を開催した。本報告会は2021年度に世界仏教文化研究センター国際研究部門が主催するエンゲージド・ブuddiズム関連行事のプレイベントとして位置付けられている。

講 演 者：ソムブーン・チュングプランプリー 氏
(国際エンゲージド・ブuddiズム・ネットワーク/INEB 理事総長)



チュングプランプリー 氏の発表の様子

報告では、まず INEB という組織とその支援活動の内容がミャンマーとの関係を中心に紹介された。INEB は世界中の仏教系の団体や活動家、宗教者、研究者を国境を越えてつなぐことを目的として設立された組織である。ミャンマーに関連した INEB の活動の一つに 1996 年から続く人材育成事業がある。これは様々な宗教団体と連携しながらミャンマーで市民社会組織のリーダーとなる人材を育成するものだ。同事業へのミャンマー人参加者は現在

までに約 1,000 人にのぼり、彼ら彼女らはミャンマー各地で社会活動を行っている。また同組織は、2007 年の軍事政権に対する大規模抗議運動・サフラン革命では抗議運動の支援に加え、タイやその他の国に亡命する僧侶たちの受け入れに尽力した。そして 2021 年 2 月のミャンマー国軍によるクーデター直後には、「ミャンマーにおける、和解と暴力に頼らない行動と、民主化を求める声明」を発表し、今日まで独裁体制に抵抗する人々を支持し続けている。

次いで、ミャンマーは現在、クーデターと新型コロナウイルス蔓延という二つの危機にさらされていることが語られた。チュングプランプリー氏によると、約 1,000 人の市民が軍部との衝突等によって命を落とし、約 7,000 人が逮捕され、5,000 人以上が拘束されるか刑に処せられたという。その一方で、同国における新型コロナウイルスによる死者は 6,000 人以上にのぼっている。加えて同国は多数の国内避難民、そして難民を抱えており、人口の半分が貧困にあえいでいるという。これらの人々は食糧や水、避難所、医療など様々な支援を必要としているが、昨今では新型コロナウイルスの蔓延が支援活動の壁となっている。

そうした中で、INEB はクーデター勃発以降約 5 カ月以上にわたり、ミャンマー民主主義支持の表明、ワークショップ開催、人道支援活動団体や国内避難民、難民らへの金銭的援助、民主活動家への法律家や人権団体の紹介、抵抗活動を行う仏教僧侶への支援などを行ってきた。直接的・間接的に援助した人々の総数は約 145,000 人にのぼるという。

同報告では最後にカレン州平和支援ネットワークの提言書が紹介された。チュングプランプリー氏は、ミャンマーの現状を改善するためには、難民への支援、難民支援団体への国境を越えたサポート、軍部への開発援助の停止、軍事政権の外交的不承認などが必要だと提起する。

質疑応答では、「日本がミャンマーの現状改善のためにできることは何か」という問いかけがなされた。チュングプランプリー氏は、憲法 9 条を有する日本は平和の大使として国際的な役割を果たしており、中国やアメリカといった世界の超大国に次ぐポジションを担うという見解を示した。他方で同氏は、日本の投資と軍事政権との結びつきは見直されるべきであるとも述べた。さらに、同氏によって日本にもミャンマーへの草の根的な支援活動を行っている団体があることが紹介された。

本報告会にはミャンマー支援活動を行う日本の各団体の関係者にもご参加いただいた。特に、枝木美香氏（アーユス仏教国際協力ネットワーク事務局長）や小武正教氏（メラウーキャンプ教育支援の会代表）からは、それぞれの所属団体の活動との関わりから、本報告への真摯なコメントが寄せられた。



枝木 氏



小武 氏